

## ごあいさつ

理事長 村若 尚

平成28年度のゆめもくばのいちばん大きなエピソードは、8月末の西条プラザの閉店にともなう引越でした。約二週間の休業で新しい場所でのひろば開催にこぎつけることができたのは、スタッフの皆さんの頑張りによるところが大きいと思います。本当にご苦労様でした。

引越し先の「キッズプラザひがしひろしまゆめもくば」の広さは、以前の面積と比べて狭かったため、事務局とミニイベントスペースを兼ねた部屋を別に借りることになりました。

引越し後、月あたり利用者数は半減しました。利用者の声を聞いてみると、その大きな原因は、駐車場が遠くなったことによる利便性の低下であるように思われます。利用者が減ったことによって、一人ひとりに対してきめ細かなケアができるようになったことはメリットですが、「訪れやすさ」は本来《ひろば》が備えるべき基本的な条件であり、その点で現在の立地は決して良いとは言えません。逆に言えば、ショッピングセンターの中という場所は、すごく恵まれていたんだなあというのが正直な感想です。

また、今後ずっと事務局の賃借料を払い続けるのは財政的に困難であり、できれば早うちに再度拠点の場所を移したいと希望しているところです（スタッフの皆さんには申しわけないですが）。

さて、東広島市における子育て支援で特筆すべきなのは、昨年度「産後ケア事業」が始まったことです。おそらく今後母子保健型利用者支援へと拡大し、いずれ包括支援につながるのではないかと思います。

広島県でも今年度「ひろしま版ネウボラ構築事業」を始めました。こちらは母子保健型と基本型の利用者支援を核として、就労支援・養育支援・学習支援などのサービスが拡充された形（ワンストップサービス）を目指しているように思えます。

国も「地域包括支援」を以前から言っています。障がい者支援や高齢者支援をも取り込んだイメージで語られることもあります。

しかし、「何でもあり」というのは、けっきょく中途半端になって「何もない」ことと同じです。限られた人員で「何でもあり」の施設を担うのは現実的ではないので、実際には、いろいろな人や制度や施設に「つながる」ことができる仕組みになるのではないかと考えます。

ならば、もういっそのことイタリアの地域カフェ「パール」のようなものをあちこちに作って、そこに行けば話を聞いてくれる人がいて、すぐに解決するわけじゃないけど適切な人や制度や施設と「つながる」ことができるようになればいいんじゃないかと夢想したりしております。